

第 6 期北九州市障害福祉計画・第 2 期北九州市障害児福祉計画の  
目標等の管理シート

担当部局

保健福祉局 障害福祉部

成果目標

(8) 発達障害のある人等に対する支援の充実・強化

計画 (P)  
↓  
実施 (D)

目標値

○令和 5 年度末までの目標値  
令和 5 年度末までに発達障害のある子ども、発達障害のある人のライフステージを  
通して一貫した支援を実施する体制を構築すること目標とする。

## 【目標値の考え方】

発達障害のある人等の地域生活の安定及び福祉の向上を図るため、健診や特性評価、  
就学準備など、就学前児童を対象とした早期支援システムの試行を複数の地域で行う  
とともに、発達障害者支援地域協議会に専門部会を設け、成人後までの支援体制や、  
強度行動障害の支援体制の構築を図ることとする。

計画 (P)  
↓  
実施 (D)

活動指標 (内容)

			R 3	R 4	R 5
発達障害者支援地域協議会の開催	開催回数	見込	4 回	4 回	4 回
		実績	0 回	2 回	3 回
発達障害者支援センターによる相談支援	相談件数	見込	3,800 件	3,800 件	3,800 件
		実績	3,883 件	3,588 件	2,740 件
発達障害者支援センター及び発達障害者地域支援マネジャーの関係機関への助言	助言件数	見込	54 件	54 件	54 件
		実績	33 件	26 件	26 件
発達障害者支援センター及び発達障害者地域支援マネジャーの外部機関や地域住民への研修、啓発	研修、啓発件数	見込	29 件	29 件	29 件
		実績	22 件	42 件	39 件
ペアレントトレーニングやペアレントプログラム等の支援プログラム等の受講者数	受講者数	見込	15 人	15 人	15 人
		実績	11 人	11 人	12 人
ペアレントメンターの人数	人数	見込	13 人	23 人	23 人
		実績	19 人	18 人	18 人
ピアサポートの活動への参加人数	人数	見込	15 人	15 人	15 人
		実績	47 人	31 人	64 人

評価 (C) ↓ 改善 (A)	R3年度	<p><b>評価 (C) 【目標等を踏まえた評価、改善方策】</b></p> <p>令和3年度は協議会実施に代わり、3つの専門部会を立ち上げ、実態把握・特性評価・基本の手立ての普及・強度行動障害支援等について検討した。令和4年度からは、部会での議論をふまえ、協議会の中で①基本の手立ての実施方法等に関する広報啓発、②専門機関への相談に係るガイドライン作成、③強度行動障害に係るアウトリーチ支援について検討したい。</p> <p>発達障害者支援センターによる相談支援は、延べ相談件数は3,885件と見込以上の多くの利用者の悩みや不安の解決につなげることができた。引き続き、各関係機関との連携を図り、支援の場を広げられるように努める。</p> <p>また、その他関係機関への助言・研修、啓発に関しては、一部見込に達しなかったものの、質の高いサービスを提供することができた。引き続き、各関係機関との連携を図り、支援の場を広げられるように努めたい。</p> <p>また、発達障害児の家族を支援するために、ペアレントトレーニング等の支援プログラムの充実を図り、広報・啓発を行い、受講者数を増やすよう努める。</p> <p>ペアレントメンターについては、見込みを上回る登録者数となり、増加している要請に対応できている。現状維持に努める。</p>
		<p><b>協議会等意見 【評価等に対する意見】</b></p> <p>強度行動障害の支援について、実態把握をしっかり行っていただき、支援のためのネットワークを分かりやすく、そして本当に実施性のある形でやってほしい。成人期における放課後等デイサービスと同じような労働サービスが全然担保されていない。長い成人期においては親としても仕事を辞めたり、いろいろな温暖差があると感じている。</p>
		<p><b>改善 (A) 【次年度における取組等】</b></p> <p>令和4年度は発達障害者支援地域協議会を2回開催し、強度行動障害をふくめた現状課題について協議しました。発達障害者のライフステージを通じた切れ目ない支援を実現するためには、関係者間の共通理解と情報共有や、地域における各関係機関の連携（ネットワーク化）が重要であることを再確認しました。また、強度行動障害についても、理解促進や支援者の資質向上を目的としたシンポジウムを令和5年3月に開催したところです。今後も、発達障害者支援地域協議会で、発達障害者への支援の方策や強度行動障害への支援体制（緊急時をふくめた支援の基盤整備や、支援者向け研修、実態把握、事例検討等）について協議を続け、各支援を具現化できるよう取り組んでまいります。</p>
評価 (C) ↓ 改善 (A)	R4年度	<p><b>評価 (C) 【目標等を踏まえた評価、改善方策】</b></p> <p>令和4年度に協議会で①～③について協議をした結果、令和5年度は発達障害者支援における効果的な情報共有の仕組みや支援者であるコーディネーター間の調整の仕組みについて、そのあり方を（目指す姿）を検討するとともに、一貫性を持った支援体制を構築するための課題や具体的に取り組むべき事項の検討・整理・提示を行うため、協議会とは別にワーキンググループを設置し協議する事になった。</p> <p>発達障害者支援センターによる相談・助言件数は、見込に達しなかったが利用者の悩みや不安の解決につなげることができた。引き続き、各関係機関との連携を図り、支援の場を広げられるように努めたい。</p> <p>また、地域住民への研修・啓発については、前年度を上回り、量・質ともに高いサービスを提供することができた。引き続き、各関係機関との連携を図り、支援の場を広げられるように努める。</p> <p>ペアレントトレーニングやペアレントプログラム等についても、引き続き現状維持に努めたい。</p>
		<p><b>協議会等意見 【評価等に対する意見】</b></p> <p style="text-align: center;">特になし</p>

		<p><b>意見】</b></p>	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">評価 (C) ↓ 改善 (A)</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">R5年度</p>	<p><b>改善 (A) 【次年度における取組等】</b></p>	<p>令和5年度は発達障害者支援地域協議会（3回開催）の下部組織として発達障害児者支援における効果的な情報共有の仕組みや支援者であるコーディネーター間の仕組みについて議論するワーキンググループを5回開催しました。次年度はワーキンググループの検討結果を踏まえ、実施可能な取組について着手していきます。</p> <p>また、強度行動障害の支援について検討するため、北九州市障害者自立支援協議会の中に障害福祉サービスに携わる支援者で構成される「地域生活支援交流会」を設置し、事例検討を通して事業者の連携強化や情報共有を図りました。これらの会議で出た方策等についても、実施可能な取組について着手していきます。</p> <p>今後も、発達障害者支援地域協議会で、発達障害者への支援の方策や強度行動障害への支援体制（緊急時をふくめた支援の基盤整備や、支援者向け研修、実態把握、事例検討等）について協議を続け、各支援を具現化できるよう取り組んでいきます。</p>
		<p><b>評価 (C) 【目標等を踏まえた評価、改善方策】</b></p>	<p>令和5年度に設置したワーキンググループでの検討結果を踏まえ、発達障害者支援センター「つばさ」を中心に、関係機関の協力を得て効果的な情報集約、情報発信のための検討を進めます。</p> <p>また、発達障害児者支援に関する支援者（コーディネーター等）の交流機会を確保するため、障害者自立支援協議会等の既存の仕組みの活用も含めて検討します。</p> <p>さらに、強度行動障害支援について、具体的な施策に向けた協議の場を引き続き障害者自立支援協議会に位置づけ、アウトリーチ支援体制の具体的な案について検討します。また、障害福祉サービス事業所の強度行動障害支援に関する体制等の実態把握も行います。</p> <p>今後も、発達障害者支援地域協議会で、発達障害者への支援の方策や強度行動障害への支援体制（緊急時を含めた支援の基盤整備や、支援者向け研修、実態把握、事例検討等）について協議を続け、各支援を具現化できるよう取り組んでいきます。</p>
		<p><b>協議会等意見【評価等に対する意見】</b></p>	<p style="text-align: center;">特になし</p>
		<p><b>改善 (A) 【次年度における取組等】</b></p>	<p>令和5年度は発達障害者支援地域協議会（3回開催）の下部組織として発達障害児者支援における効果的な情報共有の仕組みや支援者であるコーディネーター間の仕組みについて議論するワーキンググループを5回開催しました。次年度はワーキンググループの検討結果を踏まえ、実施可能な取組について着手していきます。</p> <p>また、強度行動障害の支援について検討するため、北九州市障害者自立支援協議会の中の「地域生活支援交流会」で、障害福祉サービスに携わる支援者とともに事例検討を通して事業者の連携強化や情報共有を図りました。これらの会議で出た方策等についても、実施可能な取組について着手していきます。</p> <p>今後も、発達障害者支援地域協議会で、発達障害者への支援の方策や強度行動障害への支援体制（緊急時をふくめた支援の基盤整備や、支援者向け研修、実態把握、事例検討等）について協議を続け、各支援を具現化できるよう取り組んでいきます。</p>